

市長の活動報告（令和6年10月）

10月6日（日曜日） 第35回那賀川流域センチュリーラン

阿南市が共催する那賀川流域センチュリーランが、羽ノ浦町の河川敷にて行われました。

今回から、コースが一部変更となりましたが、県内外から269人の自転車愛好家の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

開催目的である、県内外のサイクリストの親睦と体力向上と徳島県南の那賀川流域の美しい自然を体感していただけるよう引き続き取り組んでまいります。



10月8日（火曜日） 熊本県合志市長を表敬訪問

熊本県合志市の荒木市長を表敬訪問しました。

合志市とは令和元年10月1日に「人権啓発・教育」と「災害時相互支援」に関するパートナーシティ協定を締結しましたが、現在関係が止まっており、交流の再開について意見交換させていただきました。

交流復活の第一弾として、本年12月17日に開催する「令和6年度阿南市人権教育・啓発市民講座」に合志市にある国立ハンセン病療養所菊池恵楓園入所者自治会の太田明副会長を講師としてお迎えすることになりました。



10月9日（水曜日） がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）を視察

長崎県島原市において発生した雲仙岳噴火災害の被害や教訓を後世に伝えるため、2002年7月に開館した、「がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）」を視察しました。

この視察をとおして、噴火による災害の恐ろしさや、自助、共助の大切さなど改めて学んだことを、本市の安全・安心なまちづくりの推進に活かしてまいります。



10月10日（木曜日） 長崎県島原市長を表敬訪問

長崎県島原市の古川市長を表敬訪問しました。

阿南市と島原市の交流は、平成2年に発生した「雲仙普賢岳噴火災害」の復興支援のため、阿南商工会議所青年部の有志が平成4年に島原の子どもたちを阿南市に招いた「島原・阿南げんき塾」の開催から始まったのをきっかけに阿波おどりを通した交流が続けられ、平成28年7月に「災害時における相互応援協定」を締結するにいたりました。

トップ同志の関係性を深めることで、友愛的精神に基づく即応的応援体制の構築に努め、市民のためになる交流を継続してまいります。



10月22日（火曜日） 南阿波定住自立圏における医師確保に関する要望

南阿波定住自立圏の構成市町である、阿南市、那賀町、牟岐町、海陽町の首長と、美波町副町長及び阿南医療センター前田院長の6名から後藤田徳島県知事に対し、南阿波定住自立圏の医療体制確保に関する要望書の提出を行いました。

県南においては、医師不足が深刻化しており、満足な医療体制を確保することが困難になってきていることから、この要望を契機に、関係者とより一層の連携を図りながら、南阿波の医療体制確保に努めてまいります。



10月23日（水曜日） 千葉県鋸南（きよなん）町長を表敬訪問

千葉県安房郡鋸南町の白石町長を表敬訪問しました。

鋸南町は、廃校を新たに道の駅として活用するなど、公共施設の利活用において実績を残されています。

阿南市においても、子どもの教育環境を第一とする、小・中学校の再編統合に向けた取組を進めており、学校再編により学校施設として使用しない施設などの有効活用について、大変参考となる意見交換をさせていただきました。

